

特67

360

現
行
徵
兵
令

038960-000-8

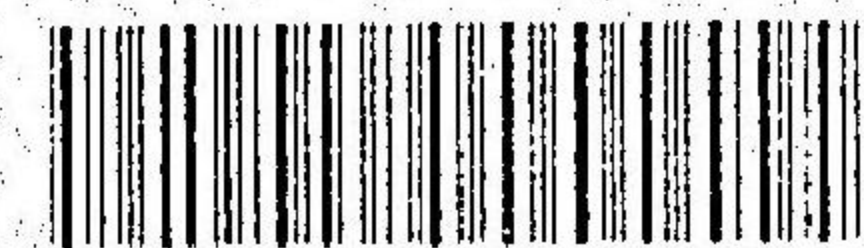
特67-360

現行徵兵令

河野 幸吉 / 編

M22.2

BCC-0183



特 67
360



朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

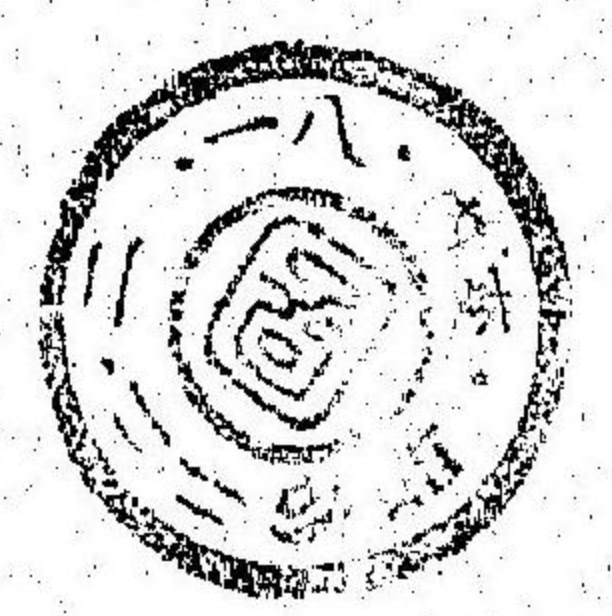
御 名 御 璽

明治廿二年一月廿一日

内閣總理大臣伯爵 黒田 清 隆

陸軍大臣伯爵 大 山 巖

海軍大臣伯爵 西 郷 從 道



○法律第一號

徵 兵 令

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服フルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス。現役ハ陸軍ハ三ヶ年海軍ハ四ヶ年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四ヶ年海軍ハ三ヶ年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五ヶ年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルヲ許サス

第二章 服 役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ。海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ

充ツ但海軍志願兵徵募規則ニヨリ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラ
スレ警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地
ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一ケ年以内トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ
但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現
役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿廿六歳以下ニシテ官立學校(帝國大學撰
科及七小學校ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ
於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大

臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私
立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ
服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ依リ一ケ年
間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自弁シ能ハサルノ
証アルモノニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ前項ノ一年志
願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二ケ年間豫備役ニ五ケ年
間後備役ニ服セシム滿十七歳以上廿六歳以下ニシテ官立府縣
立師範學校ノ卒業者ハ六ケ月間陸軍現役ニ服スルコトヲ得其服
役中ノ費用ハ當該學校ヨリ之ヲ弁償スルモノトス前項志願兵
ニシテ現役ヲ終リタル者ハ七ケ年間豫備役ニ服シ三ケ年間後備

役ニ服ス

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熱シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平時ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平時ニ在テ勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備役ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集ス

第三章

免役延期及猶豫

第十七條 兵役ヲ免スルハ癩疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若

クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルキハ其家族自活シ能ハサルノ確証アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三ヶ年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其地自活シ能ハサル事故ヲ作為シタル者ハ其願ヲ許可セス

第廿一條 第十一條ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ依リ滿廿六歳迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿廿六歳迄ニ止ミ又ハ廿六歳ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス」學術修業

ノタメ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿廿六歳迄徵集ヲ猶豫ス廿六歳ニ歸朝シ又ハ廿六歳ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試験委員ノ試験ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第廿二條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及収入役ハ豫備役ニ在ルト後備役ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閲點呼ノ爲メ召集スルコトナシ」法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章

豫備徵員

第廿三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯

丁ハ一ケ年間(十二月一日ヨリ起算ス)豫備徴員トシ戰時若クハ
事變ニ際シ兵員ヲ要ムルトキ又ハ其年徴集ノ兵員缺クルトキ之
ヲ徴集ス

第廿四條 豫備徴員ニシテ其期限内ニ徴集セサル者ハ國民兵役ニ服
セシム

第五章 雜 則

第廿五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月
一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ(戸主ニ非サル者ハ其戸
主ヨリ)本籍ノ市長村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ
終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第廿六條 徴集ハ本籍所在ノ徴募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徴募區
ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徴集ニ應スルコトヲ得

第廿七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之
ヲ徴集ス

第廿八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽
ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク
身体ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徴集ス

第廿九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日ヨリ起
算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨ
リ起算ス第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ

刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者
其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第六章 罰 則

第三十條 第廿五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ檢
査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第卅一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷
シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以
下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附 則

第卅二條 本令ハ明治廿二年一月ヨリ施行ス（但シ第廿五條ノ届出

期限ハ明治廿二年ニ限り三月一日ヨリ同月十五日マテトス

第卅三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及ヒ沖繩縣

并ニ東京府管下小笠原島ニハ當分ニテ施行セス

第卅四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スルマテノ間
戸長ノ事トス

第卅五條 舊令第十一條ニヨリ一ケ年間陸軍現役ニ服シタルモノハ
本令第十一條ニ照シニケ年間豫備役ニ五ケ年間後備役ニ服セシ
メ其豫備役ニケ年ヲ終リタルモノハ直ニ後備役ニ服セシメ通
シテ七ケ年トス

第卅六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタルモノハ徵集ヲ延

期シ其事故七ヶ年ヲ過クルモ猶已マサル時ハ國民兵役ニ服セシム

第卅七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタルモノハ徵集ヲ延期シ其事故七ヶ年ヲ過クルモ猶已マサル時ハ國民兵役ニ服セシム

第卅八條 舊令第十八條第七項及第卅一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタルモノハ徵集ヲ延期シ其事故七ヶ年ヲ過クルモ尚已マサル時ハ國民兵役ニ服セシム

第卅九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員トナリ猶ホ在校ノモノハ該徵員タルコトヲ止メ滿廿七歳マテ徵集ヲ猶豫

シ其事故廿七歳ヲ過クルモ猶已マサル時ハ國民兵役ニ服セシム
第卅十條 第卅六條第卅七條第卅八條及第卅九條ニ掲クルモノ其事故各其本條ノ期限内ニ已ミタル時ハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス（但シ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得）

第四十一條 旧令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノモノハ其事故六ヶ年以内ニ已ミタル時又ハ六ヶ年ヲ過クルモ猶已マサル時ハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス（但シ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得）

第四十二條 旧令第三十條ニヨリ補充員トナリタルモノハ之ヲ豫備徵員トナシ一年間（明治廿一年十二月一日ヨリ起算ス）ニ徵集セサリモノハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 旧令第卅一條ニヨリ第一豫備徴員トナリ在校セサルモ
ノ及ヒ旧令第卅二條ニク第二豫備徴員トナリタル者ハ直十二國
民兵役ニ服セシム補充員ク第一豫備徴員トナリタルモノ亦同シ
第四十四條 明治十二年第四十六号布告徴兵令ニ依リ國民軍ノ外免
役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ属シタルモノハ直十二國民兵
役ニ服セシム

第四十五條 旧令第八條ニモリ海軍兵トナリタルモノ、服役期限ハ
同令第三條及ヒ第四條ニ依ル

第四十六條 第卅六條第卅七條第卅八條ニ掲クル徵集猶豫ノモノ其
事故各其本條ノ期限内ニ已ミタル時ハ三日内ニ本籍ノ市町村長

ニ届出ツヘシ前項ノ届出ヲナサ、ルモノ及本令施行前旧令第卅
五條第卅六條ノ届出ヲナサシテ本令施行後ニ於テ發覺スルモ
ノハ本令第三十條ニ依リ處分スヘシ

現行徴兵令終

明治廿二年二月六日印刷
同 年二月七日出版

定價十錢

德島縣阿波國名東郡德島下助任村
百六十一番屋敷

著述者 河野幸吉

同縣阿波國名東郡德島富田浦町
千三百五十五番屋敷

印行者 花谷益藏

